

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第43週（10月25日～10月31日）

今週のコメント

～手足口病/ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病/ヘルパンギーナ 引き続き注意を」

第43週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,754例であり、前週比12.3%増であった。

定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.51、3.00、1.24、0.49、0.30である。

手足口病は前週比5%増の691例で、北河内6.46、中河内5.05、大阪市北部4.64、南河内3.63、大阪市東部3.20であり、北河内ブロック、中河内ブロックで警報レベル基準値5を超えている。

感染性胃腸炎は28%増の591例で、大阪市南部4.61、南河内4.56、三島3.94であった。

ヘルパンギーナは4%増の245例で、大阪市北部1.79、北河内1.73、中河内1.60である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は45%増の96例で、中河内1.20、泉州0.80、南河内0.75であった。

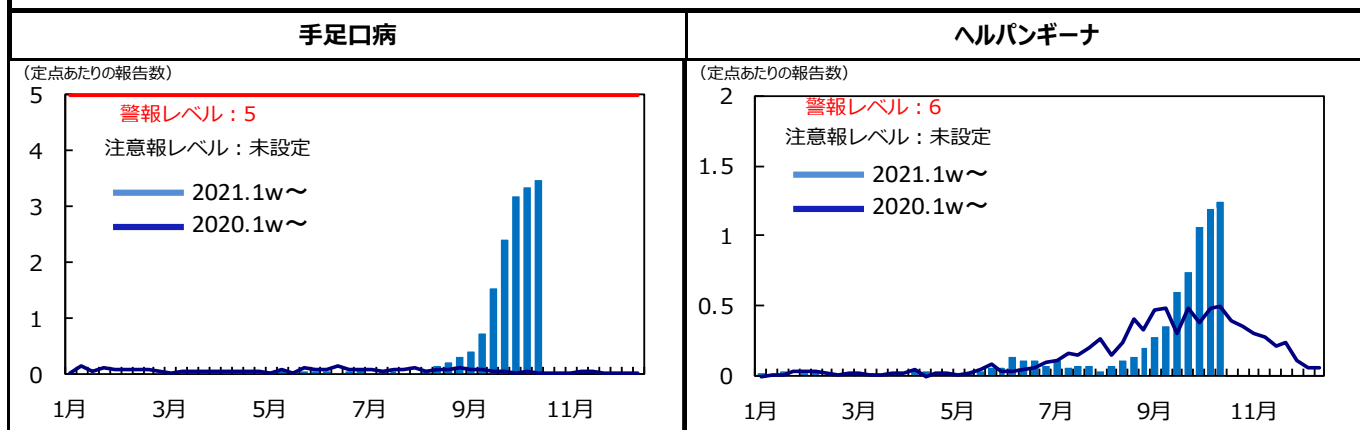


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第43週10月25日～10月31日）

第43週の順位	第42週の順位	感染症	2021年 第43週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第43週の 定点あたり 報告数	2021年第43週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	3.51	5%増	0.02	1歳_46%
2	2	感染性胃腸炎	3.00	28%増	1.89	1歳_19%
3	3	ヘルパンギーナ	1.24	4%増	0.49	2歳_39%
4	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	45%増	0.58	10-14歳_18%
5	4	突発性発しん	0.30	13%減	0.44	1歳_62%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01		0.00	1歳, 2歳, 10-14歳 (計3例) _33%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第43週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

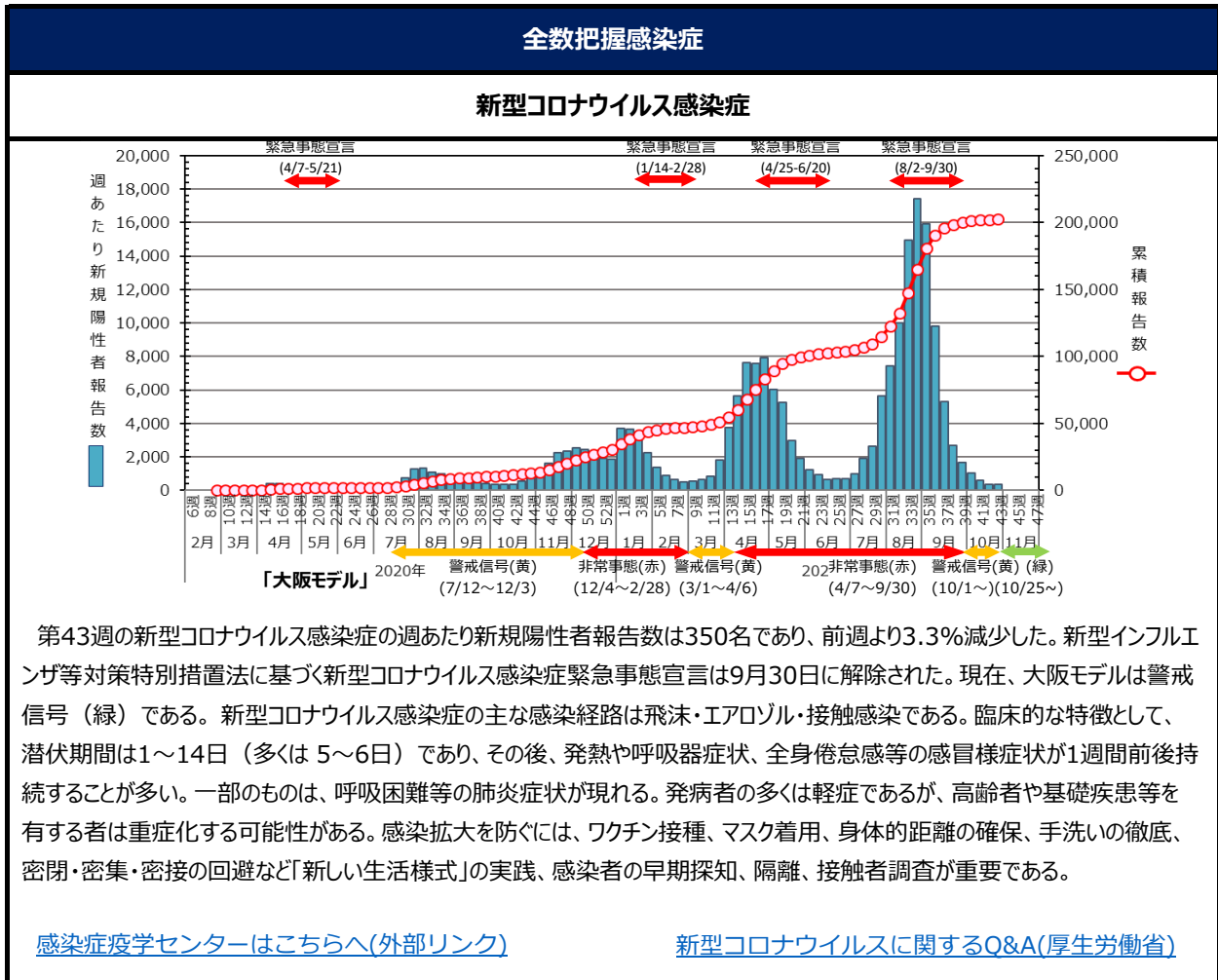


表 2. 大阪府全数報告数（2021年 第43週10月25日～10月31日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4		1						3	161
4類感染症	E型肝炎	1							1		9
	レジオネラ症(肺炎型)	3		1						2	115
5類感染症	ウイルス性肝炎(B型)	1			1						14
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		1		1	1				149
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1							1		28
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	1							2	76
	梅毒	9				1				8	674
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	350	2020年1月以降累計								202,467
結核 (2021年8月分)	結核 新登録患者数：85名 (府内累積報告数 752名、内 肺・喀痰塗抹陽性 279名)	(内 肺・喀痰塗抹陽性 36名)									

(2021年11月2日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。](#)